

# 上田市公文書館だより / 第16号

## ■公文書館から



### 信州から200年ぶりの大関誕生

■御嶽海が3度目の優勝を果たして大関に昇進し、この快挙に出身地の上松町はもとより長野県中が沸き立ちました。江戸期最強力士「雷電」以来227年ぶりとの報道が幾度もあり、雷電出身地の東御市（旧大石村）がクローズアップされました。ちなみに雷電は、上田市（旧丸子町長瀬）の相撲稽古場「石尊の辻」で、当時滞在中だった江戸相撲の浦風親方のもとで修業に励んだとのこと。■上田市誌・人物編には、大正から昭和にかけ幕内で活躍した「太郎山勇吉」の記載があります。太郎山は雷電ゆかりの浦風部屋に入門して前頭5枚目まで上がり、引退後は年寄り「浦風」を襲名して浦風部屋を運営しました。第2代上田市長の勝俣英吉郎が発起人となり、太郎山へ化粧回しを贈っています。昭和10年に引退相撲と断髪式を上田市営野球場で行い、なんと2万5千人もの観衆が集まりました。御嶽海関の更なる活躍に期待！（土屋）

## ■公文書館の催し〈第9回公文書館所蔵品企画展〉

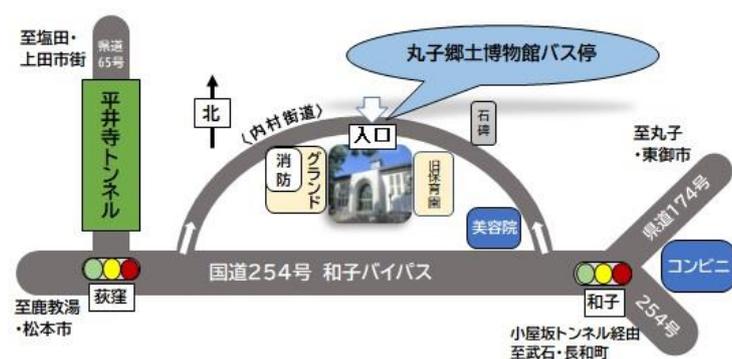
「『改訂鎮台条例』から上田市民会館の建設まで－明治・大正・昭和の公文書にみる上田地域の歴史－」

「改訂鎮台条例」文書（明治6年）、上田市営飛行場関係文書（昭和6年）、上田市民会館建設工事記事（昭和38年）など原本資料9点、写真パネル9点を展示します。

- 期間 令和4年2月10日(木)～5月15日(日)
- 説明会 3月5日(土)、4月10日(日)、両日とも午前10時・11時・午後1時・2時から各5名定員、説明会申込は2月22日(火)から電話かメールで。
- 観覧料 無料（ただし丸子郷土博物館を観覧の場合は個人100円）

(注) 新型コロナウイルス感染状況により延期・中止の場合があります。お手数ですが、事前にホームページまたは電話でご確認をお願いします。

## ■公文書館のご案内 開館時間：午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）



### □住所・電話

〒386-0413 長野県上田市東内 2564-1  
Tel.0268(75)6682 Fax0268(75)6683

### □メール

kobunshokan@city.ueda.nagano.jp

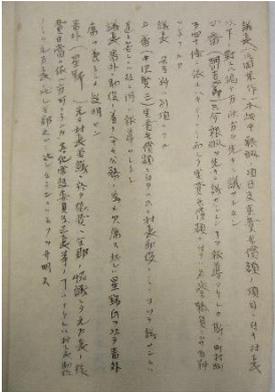
### □ホームページ

上田市ホームページ内を公文書館で検索

## ■公文書館所蔵資料の紹介

### 城下村の「第二回村会議事録」文書（明治22年）

◆上田市の旧城下村には、明治22年（1889年）の町村制の施行により開催された「第二回村会議事録」文書が保存されていました。城下村は町村制の施行により、中之条村・御所村・諏訪形村・小牧村の区域をもって発足しました。この城下村では6月に第1回、9月に第2回村会が開催され、それぞれ議事録が作成されました。◆このうち「第二回村会議事録」には、後に初代上田市長を務めた細川吉次郎氏が議会で発言しています。細川議員は文久元年（1861年）、諏訪形村の庄屋を務めた旧家に生まれました。早くから父親と家業の農業・養蚕・蚕種業に従事しました。勤勉で有能であり、若くして村会議員に選ばれ、明治26年、32歳で城下村村長に就任しました。◆この議事録には「四番（細川吉次郎）」として発言の内容が記録されています。細川議員は「有給吏員の報酬については、町村制第四十条によるべきものである。実費弁償については名誉職員に弁当料を与えるのか」と発言し、それに対して議長の片岡栄作村長は「弁当料は別項にある」と答弁しています。その後実費弁償の審議は4名の委員を選んで行うことに決定し、細川議員は最高得票で委員に選ばれました。◆細川議員は後に上田町長を務め、大正8年には上田市長に就任しました。大正10年には城下村は上田市と編入合併し、名実ともに人口3万人余の上田市が誕生しました。（倉澤）



明治22年、第2回  
城下村村会議事録



初代上田市長の  
細川吉次郎氏

## ■公文書館の利用

※公文書館は入場無料、郷土博物館展示室は有料（大人100円）

- **資料検索**→目録検索システムをご利用ください。
- **閲覧申込**→所定用紙でお申込みください。メール、ファックスでも可能です。ただし、一度に閲覧できるのは「5点」までです。
- **資料閲覧**→個人情報情報の審査終了後に閲覧の可否を連絡します。館内閲覧室でご覧いただきます。館外貸出しは行いません。



※審査に時間を要する場合があります。また、個人情報が含まれる資料は閲覧できない場合があります。目録検索システムのご利用、閲覧申込書のダウンロードは、上田市ホームページ内の公文書館ページからどうぞ。